

3・11 福島へ！

全学連（斎藤郁真委員長）書記局通信

2012年2月6日

No. 1

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

受験生に原発再稼働阻止訴え 圧倒的結合勝ち取る！

●2月5日から法大入試始まる！

2012年決戦の火蓋は切って落とされた。

2月5日から法大入試がはじまり、全学連と文化連盟が情宣活動に断固決起！ 受験生に対して「原発再稼働阻止！」「3・11へ！」と訴えると、吸い込まれるようにビラが受け取られ、反原発署名が怒濤の勢いで寄せられた。また法大の1・2年生も連日決起し、「原発推進の大学を学生の手で変えよう！」「法大に入って共に闘おう！」と訴えた。受験生からは「原発反対なら署名する」「帰る時にもやってますか？帰りに署名します」といった反応が次々と寄せられた。

去年は駅前の情宣すら弾圧してきた公安警察も、今年は全学連・文連に一指もふれられず、我々と受験生との結合を指をくわえて見ていることしかできていない。反原発闘争の正義性の前に、敵の側は完全にボロボロ状態だ。

情勢は一変している！2・25－26国立大学入試も含めて大胆に受験生と結合し、3・11郡山へ大結集しよう！

●3・11 突破口に2012年決戦へ！

大飯原発のストレステストをはじめ、あくまで原発再稼働を狙う野田政権。

その一方で、稼働している原発は今やわずか3基。日に

日に高まる原発への怒りが、野田政権による原発再稼働を阻み、原発政策を破産に追い込んでいる！

再稼働を阻止し全原発をなくせるかどうか、一切は私たちの行動にこそかかっている。2～3月の闘いが決定的だ。受験生をはじめ街頭、寮、サークル、あらゆる場所で学生とつながり、「原発いらない！3/11県民集会」に巨万の学生・労働者の結集を実現し、4月法大・5月沖縄をはじめとした2012年決戦の突破口を切り開こう！



「再稼働阻止！全原発廃炉」に向けて、みんなで参加しよう！

原発いらない！3/11県民集会

【要項】 **3月11日（日）福島県郡山市・開成山球場**

13:00～オープニングコンサート 15:00～デモ

※夕方から全国学生集会やります！

2・5 徳島刑務所包囲闘争 600名の結集で打ち抜く！

70年安保・沖縄闘争を最先頭で闘い、71年渋谷暴動における機動隊殲滅戦闘ででっち上げられ、無実の罪で37年も徳島刑務所に囚われている全学連の大先輩・星野文昭さんを取り戻すための「2・5 徳島刑務所包囲行動」が600名の大結集で打ち抜かれた！

東京から駆けつけた斎藤郁真全学連委員長は集会で、星野さんの不屈の闘いに励まされて法大闘争を闘いぬいたことを報告し、星野奪還を宣言！

星野文昭さんのつれあいである暁子さんが「今この時も文昭の心は闘う私



たちとともにあります。文昭が徳島刑務所に移管された1987年10月20日から24年間、面会を続けてきました。文昭が解放されたらきょうのデモコースを必ず一緒に歩きたいと思います。友人面会ができていたなら、被災地の苦闘、非正規の現実、沖縄の現実を聞いて、限りない暖かな笑顔で包み込むでしょう。それを阻んでいるのは権力です。刑務所にいる受刑者の大半は労働者人民だ、在日や沖縄出身者、被差別部落民も多いと文昭は話してくれました。きょうのデモで文昭の解放を呼びかけるとともに刑務所にいる労働者人民に私たちの声を届けましょう！」とアピール！

2・5を突破口に、2012年こそ星野さんを奪還しよう！



法大「ビラまき禁止」 仮処分決定弾劾！

2月1日、東京地裁にて法大の入試期間中におけるビラまき禁止仮処分をめぐる審尋が行われた。そして東京地裁は法大当局の主張を全面的に鵜呑みにし、仮処分の決定を下した。まさに憲法停止であり、満腔の怒りで弾劾する！

法大当局は2010年以降、全学連に対して「2月入試期間中における半径200メートル以内のビラまき・情宣活動および立ち入りの禁止」を求める仮処分申請を行い続け、裁判所もこれを認める反動判決を下し続けている。しかもたった一回の、審尋ならざる審尋でもってである。手続き的にも違憲極まりない。

今回決定を下したのは、福島の高橋裁判長で「放射能は無主物」「東電に責任はない」との反動判決を下した悪名高き福島政幸裁判長（民事第9部）である。まさに原発推進と一体の反動判決に他ならない。

斎藤郁真全学連委員長は審尋の冒頭に、「教育とは次の

社会に責任を取りきることである。受験生にビラをまくことを禁止することは、教育破壊以外の何ものでもない」「3・11以降、大学の腐敗が突き出され、法大闘争が何と闘ってきたのかが明らかとなった」「裁判所は原子力ムラの一角であり、権威は失墜している。これ以上権威を失墜させるような判決を下すな」と訴え、原子力ムラの一角である裁判所と大学のあり方を徹底弾劾！

さらには求釈明で、この仮処分が「学生に政治活動やらせない」「原発反対の声をやらせない」ものであることを完全に暴ききり、裁判所も法大当局も求釈明に全く答えられないばかりか最後は逃げるように帰っていくのみであった。どちらが正義であるかは火を見るより明らかだ。

この反動的な仮処分決定に対して、さらなる闘いの爆発でこたえていこう！

受験生・学生と結合し、3・11フクシマへ！